

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月 6 日

江別市立江別第三中学校

1 本年度の重点目標

◎今年度の経営重点目標◎

「凡事徹底」

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営の重点	1 目指す生徒像の実現に向けて、取組を明確にし、全ての教育活動で推進している。	A	「身に付けさせたい資質・能力」を4つに精査し重点化することで、目指す生徒像の実現に向け、何をすればいいのかが明確だった。継続したい。	A	A
	2 お互いを尊重し合って業務を推進する組織になっている。	B	業務の精査を進めたが、定数4減の影響は大きく、互いを支えあう余裕がないと感じている教職員が多かった。今後教職員が生徒について対話する時間も確保し、心理的安全性を高める。	A	A
教育課程・学習指導	11 子どもたちの主体的で対話的な学びが実現できるよう指導方法を工夫している。 23 授業等で ICT 機器が有効に活用され、生徒の情報活用能力を育てている。	A	個別最適な学びを保障し、協働的な学びを充実させる ICT の良さを生かし、より一層生徒自身の思考力・表現力を高める取組を継続したい。	A	A
	4 組織的・継続的な校内研修の充実にも努めている。	A	今年度は、校内研究で話し合い活動（ファシリテーション）に取り組み、主体的で対話的な学びの実現のため、教務・研修部を中心に取組を進めた。継続したい。	A	A
	28 日常的に保護者や地域に教育活動を公開し、地域とともにある学校作りに努めている。	A	毎月1回以上の公開日を設定し保護者・地域に来校を促した。初年度ということもあり浸透しきれなかったが、今後も継続し地域と共にありたい。	A	A
	7 発達段階に応じた進路についての考えが持てるように系統立てたキャリア教育を進めている。	A	系統だった独自性の高いキャリア教育を推進してきた。生徒により効果的なキャリア教育にするためには見直しも必要という観点を持ち継続する。	A	A
生徒指導	20 生徒がお互いを思いやり、積極的にかかわりあう関係作りができるよう努めている。 16 日常生活の中で、生徒に寄り添う教育相談体制づくりに努めている。	A	定数は減ったものの、より教育活動を精選することで、時間を生み出し、生徒に関わる時間を確保してきた。いじめ未然防止のためにも継続する。	A	A
	21 特別な配慮等が必要な生徒への組織的な対応に努めている。	A	定期的に支援委員会で交流を行った。校務分掌に「特別支援」を創設し、さらにきめ細かく困り感をもつ生徒のアセスメントを大切に、特別支援教育を充実させた。継続する。	A	A
	3 生徒の安全に関わる資質能力を育成するとともに教職員の危機管理意識の醸成に努めている。	A	教職員の危機管理意識を高める研修を一層強化していく。防災教育・交通安全教育、情報モラル教室等、生徒の安全意識を高める教育を推進する。	A	A
	24 授業等での活用場面をはじめ、様々な場面で情報モラルの意識が高まる指導を行っている。	A	生徒のタブレット端末の操作はかなり慣れ、学習・思考の道具として位置づいている。SNS等での情報モラルは、読解力や人間関係を築く想像力を高める取組を、道徳や特別活動を中心に、より徹底を続ける。	A	A
小中一貫	26 三中学校区小中一貫教科系統表・年間指導計画・生活と学習のスタンダードの指導実践と充実にも努めている。	B	令和6年度は、主に第一中学校区と指導事項・スタンダードの共通化を図った。新しい「めざす子ども像」実現のために、教育活動を推進する。	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- (教育課程・学習指導)28の「日常的に保護者や地域に教育活動を公開し、地域とともにある学校作りに努めている」はA評価なのに「公開日が浸透しきれなかった」とあるので、B評価ではないか。その機会を設けたことに対するA評価なら納得である。
- 「4」の評価と「3」の評価の基準がはっきりしないので、自己評価も人によると思うが、よくやっていたと思うので、「3」と評価した先生方も「4」と評価してもいい。
- 先生方の自己評価は、目指す理想が高いのか、低すぎると思う。自分たちのやっている教育活動にもっと自信を持ってほしい（特に小中一貫に関すること）。
- 教職員が4人も減って、先生方の苦労は相当なものだったと思う。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない